

船舶事故調査報告書

平成25年10月17日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵男（部会長）
委員 庄司 邦昭
委員 根本 美奈

事故種類	乗組員行方不明
発生日時	不明（平成24年9月11日 16時00分ごろ～18時45分ごろの間）
発生場所	不明（和歌山県御坊市塩屋漁港～和歌山県日高町紀伊由良港一のハイ防波堤南東方の入り江付近の間）
事故調査の経過	平成24年9月13日、本事故の調査を担当する主管調査官（神戸事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者としての船長からの意見聴取は、本人が行方不明のため行わなかった。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 徳栄丸、0.5トン WK3-25148（漁船登録番号）、個人所有 5.93m(Lr)×1.63m×0.44m、FRP ガソリン機関、30kW（動力漁船登録票による）、平成3年11月
乗組員等に関する情報	船長 男性 46歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成19年5月8日 免許証交付日 平成24年1月13日 (平成29年5月7日まで有効)
死傷者等	行方不明 1人（船長）
損傷	なし
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、平成24年9月11日16時00分ごろ塩屋漁港を出港し、和歌山県由良町由良港内の網代に向かった。 船長の知人は、船長に網代から自宅まで車で送ってほしいと依頼されており、網代で船長を待っていたところ、18時00分になっても本船が網代に到着せず、船長の携帯電話が圏外となっていたので、本船が所属する漁業協同組合に連絡した。 地元漁船は、本船の捜索を行い、18時45分ごろ、‘紀伊由良港一のハイ防波堤北灯台から真方位145°800m付近の入り江’（以下「本件入り江」という。）付近において、機関が作動し、操縦ハンドルが中立の位置にある状態で漂流していた本船を発見したが、船長が見当たらなかったため、最寄りの漁業協同組合に連絡を行い、

	<p>同組合が19時25分ごろ海上保安庁へ118番通報した。</p> <p>本船は、僚船により、網代にえい航された。</p> <p>海上保安庁の巡視船艇及び地元漁船は、船長の捜索を行ったが、発見することができなかった。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 北北西～西北西、風力 1～2、視界 良好</p> <p>海象：海上 平穏、潮汐 下げ潮の初期～中央期、水温 約28.5℃</p>
その他の事項	<p>本船は、船尾部に船外機を備えた操舵室のない平甲板の小型漁船であり、レーダー、GPSプロッターなどの航海計器はなかった。</p> <p>船長は、本船を網代に回航してまぐろ漁の生き餌（小アジ）を捕るために使用していた。</p> <p>塩屋漁港と網代との距離は、約12海里であり、船長は、時々、本船で塩屋漁港と網代との間を往復していた。</p> <p>本船発見場所付近は、磯が近く、磯波が発生しやすいところであり、陸岸から北西方700m付近まで黒ハイ、二ノ箸及び一ノ箸の順に岩礁が拡張しており、最も沖側にある一ノ箸付近から北方に向けて長さ約370mの紀伊由良港一のハイ防波堤が築造されている。また、黒ハイの北端には、小型灯標が設置されており、陸岸寄りを航行する地元漁船は、通常、黒ハイと二ノ箸及び二ノ箸と一ノ箸との間を航行していた。</p>
分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>不明</p> <p>不明</p> <p>不明</p> <p>船長は、行方不明となった。</p> <p>本船は、16時00分ごろ塩屋漁港を出港した後、18時45分ごろ、本件入り江付近において、無人の状態で発見されたことから、この間において、船長が落水した可能性があると考えられるが、落水に至った状況を明らかにすることはできなかった。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、塩屋漁港を出港した後、船長が落水したことにより発生した可能性があると考えられる。</p>
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止及び被害の軽減に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救命胴衣の着用を心掛けること。